

## ヨハネによる福音書 5章9b～18節

5

<sup>(9b)</sup> その日は安息日<sup>あんそくび</sup>であった。<sup>10</sup> そこで、ユダヤ人たちは病気をいやしていただいた人に言った。「今日は安息日だ。だから床<sup>とこ</sup>を担<sup>かつ</sup>ぐことは、律法で許されていない。」<sup>11</sup> しかし、その人は、「わたしをいやして下さった方<sup>かた</sup>が、『床<sup>とこ</sup>を担いで歩きなさい』と言われたのです」と答えた。<sup>12</sup> 彼らは、「お前に『床<sup>とこ</sup>を担いで歩きなさい』と言ったのはだれだ」と尋ねた。<sup>13</sup> しかし、病気をいやしていただいた人は、それがだれであるか知らなかった。イエスは、群衆がそこにいる間に、立ち去られたからである。<sup>14</sup> その後<sup>のち</sup>、イエスは、神殿<sup>けいだい</sup>の境内でこの人に会って言われた。「あなたは良くなったのだ。もう、罪を犯してはいけない。さもないと、もっと悪いことが起こるかもしれない。」<sup>15</sup> この人は立ち去って、自分をいやしたのはイエスだと、ユダヤ人たちに知らせた。<sup>16</sup> そのために、ユダヤ人たちはイエスを迫害し始めた。イエスが、安息日にこのようなことをしておられたからである。<sup>17</sup> イエスはお答えになった。「わたしの父は今もなお働いておられる。だから、わたしも働くのだ。」<sup>18</sup> このために、ユダヤ人たちは、ますますイエスを殺そうとねらうようになった。イエスが安息日を破るだけでなく、神を御自分の父と呼んで、御自身を神と等しい者とされたからである。